



未来を夢見て

2020/8/5 No. 29

6年生国語「風切るつばさ」・・・その後 6年1組で追試の授業

昨日に続いて今日も真夏の暑さを感じる1日になりました。校庭の1年生が育てているアサガオも大輪の花が見られる季節になりました。実はこの時期、例年だと1年生が育てているアサガオは家に持って帰ってもらっていることが多いので、この時期1年生のアサガオを觀賞できることはほとんどありませんでした。

業間休みに徳田教頭先生が熱中症予防の呼び掛けを行って下さいました。校庭では、2年4組の皆さんが、千葉先生からの指示をしっかりと聞いて、日陰で休憩し、水分補給を十分に行いながら、体育の授業を進めていました。サマータイムも中盤、感染症予防に加え、熱中症対策も進めなければならないので、ここ数日、本当に気が抜けない日々が続きます。

本日の2時間目に、6年1組で小野先生に「風切るつばさ」の授業を提案していただきました。

小野先生はとても子供の考えの引き出し方が上手で、どんどん子供からつぶやきが聞こえるので、テンポよく授業が進んでいきました。こうした授業ができるのも、小野先生と子供たちの間にしっかりとした信頼関係ができているからこそで、教室の中にお互いの考えを認め合う支持的な風土がきちんとできていることに感心させられました。

さて、昨日の授業検討会で、島貫先生からこれからの授業づくりの課題として「with コロナでの学び合い」ということが挙げられました。この背景には、感染症予防のために、これまで、手立てとして行ってきた、一斉音読やペアやグループでの話し合いが十分にできない、ということがあると思います。

私も、このことには同感です。一方、以前から、(個人的に)授業づくりが「学習形態や指導法の工夫」にやや傾倒し、肝心の教材そのものの分析がやや不足しているのではないかと、という思いもありました。

そういう意味では、今回、これまで当然と思って取り入れてきた授業での手立てについて、原点に戻ってもう一度見直す機会になるのではないのでしょうか。

今日の小野先生の授業では、子供たちが教材文を黙読する時間がありました。子供たちが教材としっかり向き合っていることが伝わってくる、静かで集中したとても心地よい時間でした。また、座席表に子供たちの記述の記録を残しながら、(この考え発表してもらおう)という配慮が聞こえ、そろそろ挙手に抵抗を示し始めている6年生への適切な配慮が感じられました。

私も連日授業を参観させていただき、私たち自身が子供に、教材に、そして授業に謙虚に向き合うことの大切さを、6年生の子供たちや先生方の姿勢から感じさせていただきました。6年生の先生方、本当にお疲れ様でした。そして、頑張った6年生の子供たちに心から拍手を送ります。

(文責：手代木)

